

第 2 回北九州 ESD 検討会 議事要旨

【事務局】

ただ今から、第 2 回北九州 ESD 検討会を開催する。

それではまず、主催者である北九州 ESD 協議会代表近藤倫明より挨拶を申し上げます。

【代表】

本日は、第 2 回北九州 ESD 検討会を実施するにあたり、過去を振りかえってみると、北九州 ESD 協議会は、寺坂代表、三隅副代表が 2006 年に準備会を発足し、国連大学より RCE の認定を受け、世界的に活動が認められた。2005 年に「ESD（持続可能な開発のための教育）の 10 年」が開始され、2015 年に COP21（気候変動枠組条約第 21 回締約国会議）で新しいプラットフォームが整えられ、本協議会も新たなアクションプランということで、2015～2019 年の 5 年間のアクションプランを策定した。

今回のアクションプラン策定に当たっては、これまで数々のワークショップや ESD カフェ、アンケートなどさまざまな方々の意見をいただいた。それらの意見が完全にまとまることがないことが多様性でもあるが、本日はこの素案を案にまとめていきたい。

【事務局】

座長については、前回に引き続き、北九州 ESD 協議会 近藤代表にお願いする。

では早速、議事の進行を座長にお渡しする。

【座長】

それでは、議事に入る。

最初に事務局から、北九州 ESD アクションプラン 2021～2025（素案）について説明いただく。

【事務局】

前回の検討会から、ワークショップ、2 回のトークセッション、沢山の会員からの意見、4 人の会員からの提言にもとづき、運営委員会で素案を作成した。

第 1 回検討会では、主に素案の「これまでの成果と課題」「目指す北九州の姿」「アクションプランの方向性」について議論いただいた。今回は「北九州 ESD の将来ビジョン」及び「重点的に取り組む事項」について議論いただきたい。

SDGs は 2030 年までに達成する 17 の目標である。ESD は「ESD for 2030」で定義されるように、全ての SDGs の成功の鍵として、SDGs 達成に不可欠な実施手段である。ESD は持続可能な社会づくりの担い手の育成を通じ、SDGs の全てのゴール実現に寄与すると定義されている。国内実施計画においても同様に明記されている。

本協議会においても、何をするのか、具体的にどのような行動を起こすのかを、素案の重点的に取り組む事項に記載している。

重点的に取り組む事項は大きな4つの柱によるもので、一つ目は「会員による自主的な取り組みの促進」である。これは、会員による新たな活動を促進するために、会員が自ら取り組みたい課題をあげ、そのためのチームを新たに結成する。また、新しい人との結びつきを発展させ、連携と協働を深める。例えば、海岸の清掃活動などで高校生たちが身近なところから始められるようなものである。

二つ目の事項が「ステークホルダー同士の連携・地域外との交流」では、あらゆる世代の人たちの学びの機会となる出前講座やSDGs 未来都市アワードなどにより、広くESD活動を広げていきたい。

三つ目の事項が「次世代の育成」では、RCEのユース会議などに積極的に参加して、ユースの活動の場を広げていきたい。またユースは学生だけでなく、企業や行政職員へ働きかけ、ユースの活動の活発化を図りたい。

最後に「協議会の推進体制と活動拠点のあり方」では、運営委員などのあり方など議論があったが、任期期間中にどうあるべきか今後も議論をしていきたい。また拠点についても、オンライン会議が増えてくるなか、今後について検討していただきたい。

次期アクションプランは、北九州ESD協議会として、何をするのか、どんな行動を起こすのか、行動を起こすプランとして会員の意見を取り入れた素案となっている。

【座長】

それでは、意見交換を行う。

プランについては、量も多く、範囲も非常に広いため、前回議論した項目以外について議論を進めていく。

まず、素案の6章 北九州ESDの将来ビジョンについて、協議会会員によるトークセッションや運営委員会等で検討し、「持続可能な地球のため『学び』『考え』『行動する』北九州ESD」をスローガンとしてあげている。

これについて、まずは運営委員会の委員以外の皆様から意見をいただく。

【委員】

今までのプランの成果が「変える」から「変わった」という「変容」で、その後で『「学び」「考え」「行動する』』ことは重要と思う。ただ、教育というのは、学校教育、社会教育のように線引きする、縄張りがあるという弊害があるので、ぜひ北九州のESDは多様な個人、団体と組織が結びつく相互理解の「相互に高め合い、深め合い、学び合い」ということを強調していただきたい。ゴールを共有する、SDGsに向かうことは、それぞれを理解することが前提で、相互に高め合い、深め合う学びに繋がると思うので、この補足説明の(2)を強調していただきたい。

そして ESD と SDGs の関係性ということが色々議論されているが、私は「SDGs は 2030 年に終わっても ESD は永遠に不滅です」と申し上げている。

【座長】

まさにゴールを作ったというのは、果たしてよかったのかと考えるような部分もある。ある意味、SDGs の考え方は一つの区切り、竹で言えば一つの節で、その後の目標も出てくると思うが、住み分けがあると思う。

【委員】

2030 年の一つ手前の段階の中で、どのようにメッセージを伝えることを考えると、「地球」と、「北九州」との間に少し飛躍感を感じるというのは正直なところである。2030 年を超えたその先に、一工夫あればというのが率直なところで、地球規模で変えたい気持ちはよく分かるが、もう少し手前で何かできることを持ち込めるといいかと思う。

2006 年から続いてきている ESD の大きなうねりが決して間違っておらず、歴史的な裏付けもある中で、もうひと提案できるように考えていきたい。

【委員】

この ESD の将来ビジョンの『「学び」「考え」「行動する」』という、個人の動きに着目したスローガンの方向性に賛成である。あと、重点的に取り組んでいく事項などに上手く繋がる言葉にするには、「学び合う」、「高め合う」というリレーションシップ的な言葉があると良いと思う。

あと、スローガンの最後の「北九州 ESD」を取ったほうが伝わりやすい。『持続可能な地球のために「学び」「考え」「行動する」』で終わっていいと感じた。

【座長】

前回のプラン策定時に、ESD がなかなか浸透しないから、スローガンだけでも浸透させたいという思いがあり、「北九州 ESD」を入れた経緯だと思う。

【委員】

個人ベースの『「学び」「考え」「行動する」』の意味合いが大きく、相互理解については補足説明に含まれているが、リレーションシップ的な表現が少し反映されてもいいと思う。ESD というのは難しい、敷居が高いと思われがちで、できるだけ多くの方が気軽に参加でき、人と人との繋がりなどを少し反映できたらと思う。

【座長】

『「学び」「考え」「行動する」』という点で、自分自身が主体的に考え、学び、向かってい

くことに、さらに少し繋がるという視点を加えて、一人ひとりの主体性が包含できるような相互理解を含めていければという意見であった。

それから、北九州 ESD という言葉を謳い文句のようにつけるかどうかという提案であった。

【委員】

先ほど言われたように、「地球」と「持続可能」が飛び過ぎだと思った。そこで、「SDGs 未来都市を作る」とか、『持続可能な地球のために「学び合い」「考え合い」「行動する」SDGs 未来都市北九州』とか、二つの言葉を入れたほうが良いと思った。

大牟田では、必ず SDGs と ESD を一緒に並べて書いている。北九州は ESD と SDGs がばらばらになっていると感じる。SDGs が出て、非常に分かりやすくなった分、ESD を説明するのにますます分かりにくくなったと思うので、このスローガンの中にはっきりと SDGs 未来都市北九州 ESD と併記したほうが良いと思った。

【委員】

スローガンに「SDGs を入れる」という意見はちょっと難しいと私は思う。SDGs が先行していて、ESD が埋没しそうだから「北九州 ESD」をあえて入れたと思う。そして、ESD を埋没させないため、どのようにすればいいのかを考えたほうが良いと思う。

それと、個人の変容があり、社会を変容させることが前提で、さらにリレーションシップとして「学び合い」、「考え合い」という言葉を付け加えることは良いと思った。

最後に、「持続可能な地球のため」の表現について、以前は地域のためと語っていたが、2030 年、さらに 2050 年を見据え、やはり「地球」という表現が必要と思う。今後はもっとグローバル化や ICT が進み、情報も世界的に普及していく中で、スケールを大きくして地球を入れたほうが良いと思う。

【座長】

最初に提案された将来ビジョンについては大方のところでは了承されている。その中で、足りない部分、補足説明の（１）～（４）を、取り込めないかと提案されている。

そして、SDGs 未来都市と ESD の併記について、概念が重なってしまい、意味がぼやけてしまうという意見と、「北九州 ESD」も外していいのではという意見もあった。

個人の主体性から学び、考え、それを相互理解で繋いでいくという表現ができれば一番いいと思うので、事務局で再度まとめていきたい。

しかし、全てを網羅できるわけではないので、理解いただきたい。

次に素案の 10 章 重点的に取り組む事項について、これまで会員と検討を行った結果、4 つの項目を重点的に取り組む事項としてあげている。

これについて、まずは運営委員会の委員以外の皆様から意見をいただく。

【委員】

重要なのはユースで、次世代の若者にどうやって ESD を意識させ、参加してもらうかである。

一つは学校に対しての働きかけで、教材の開発やアワード、個別の対応等で、もう一つはユースが、いかに活動に参加してもらうかが非常に重要だと思う。キーワードとしては「楽しく」で、楽しく活動できる受け入れの場の提供や、プロジェクトがたくさんできるといい。

大学からは、実習として参加する方や、先生経由でくる方が多いかもしれないが、できるかぎり、自発的に楽しく参加してもらえそうな場ができればいい。

【座長】

学校との兼ね合いということで、関連する委員の皆様方に発言いただく。

【委員】

今年度に関しては、コロナウイルス等の関係で各学校の取り組みが進めることができなかったが、1年間かけてコロナ禍での対策等も実践のノウハウ等も確立されてきた。現在、教育委員会としてどのように学校と団体、地域と繋げるかに注目して、話し合い等を行っている。例えば、市民センターの取り組み等を実際に伺い、学校といかに繋いでいくのか、また、副読本を使って北九州市でどのような取り組みが行われているのかなどである。実際、自分たちが住んでいる地域から SDGs、ESD を、最終的には地球・広い世界に繋がっている行動を起こしていけるよう、しっかりと学校で進めていければと考えている。

【委員】

自主的な取り組みで、今まであるプロジェクトに加えて、1年単位で色々やりたい人が集まり、新しいことにチャレンジするチーム制が新規でプラン案にあげられている。大学生中心に若い方々が積極的に参加して、自分たちで何かを作っていければ、モチベーションも上がり、活発な動きに繋がっていくと考えている。

これを足掛かりに、受け身的ではなく、積極的に自ら何かをつかんでいくことに繋がればと思う。

【委員】

次世代の育成の中で、「北九州の ESD の原点から現在までの SDGs を伝えあい、学びあう場作り」において、ESD の知識や情報をあまり知り得ない方々に向けて、情報の公開の仕方としては、もう少し分かりやすい言葉がいいのではないかと思った。どの層にこの言葉

を伝えていくか考えていく必要がある。

【座長】

2021 年から 5 年間かけて、まさに具体化していくのだろうが、その中で、どの層に対してどのようにアプローチしていくかというのは、年代によって理解の仕方が変わっていくかと思う。

【委員】

重点的に取り組む事項の「会員による自主的な取り組み」で、ESD を促進させるために、従来の展開と比較して「巻き込み感」として、もう一つ打手があってもいい。

ユースの巻き込みについては、彼らに責任を持たせるだけではなく、まず大人が責任を持っているということを明確にし、その上で一緒にやっていくことが大切かと思う。

ステークホルダー同士の連携についても、幅広く包摂、包含的に設定されている中で、北九州らしさをどのように打ち出すのかが問われると思う。これまでの取り組みに加えて、企業の巻き込みなど、従来リーチが及ばなかったところに、どう踏み込んでいくのかのメッセージの出し方に期待したい。

【座長】

先ほどのスローガンでの議論のように、指導する側と指導される側の相互の学び合いの発想が必要と感じた。

【委員】

他の委員からのチャットでの質問で、他の都市での ESD と SDGs との関係や併記の仕方について、実際見ている限りでは、ESD を訴えこんでいる都市は相対的に少ないのかもしれない。もともと ESD に取り組んできた RCE の関係性がある都市では、併記している場合もあるが、実際のところあまり見たことがない。

ただ、先駆的になるほど、人材育成の重要度は認識され、九州では小国町が専門的な人材育成を巻き込むときのキーワードとして ESD を使われている。一方で突然 ESD が出てくると、ESD が持っている言葉の概念の難しさで、分かりづらくなることもある。そこに北九州らしさに打ち込んでいけるかが、このアクションプランで問われていると思う。

【委員】

北九州の ESD の原点は、一体となって公害克服をした中で、「一体となって」という点が重要と思う。それぞれの主体に課せられた使命をしっかりと理解していただきたい。

新学習指導要領のキーワードで、「主体的＝対話的で深い学び」という言葉がある。実はこの 3 つのキーワードが重点的に取り組む事項の中に含まれており、非常に興味深い。

すなわち、「会員の自主的な取り組み」が、まさに「主体的」と思う。次に「対話的」が、「ステークホルダー同士の連携・地域外との交流」ではないかと思う。そして「深い学び」が、『「学び」、「考え」、「行動する」』ということで、これをどのように展開していくかが重要である。今後、実施していく上で、さまざまな検討をいただきたい。

「ステークホルダー同士の連携・地域外との交流」の「対話的」について考えると、プラン案には「ESD・SDGsの普及啓発を推進します」と書いてある。ここで「広げる」という役割はできても、深まるのかという懸念がある。ただ知っているだけに留まらず、いかに深めていけるかが重要なポイントになる。そこで、原点に戻り、公害克服のときのようにSDGs17に向かって、「あなたに何ができますか」と考えることが重要である。例えば、ユースには大人と同じことではなく、ユースだからできることをすることなど。すなわち、「ステークホルダー同士の連携・地域外との交流」では、それぞれの持ち分、特徴で、できることを合わせ、一つのゴールに向かう、まさにコレクティブインパクトの思想を生かしていただきたい。「主体的」とは、「ガチ ESD」ということで、全てのステークホルダーがガチになって、自分ができることは何か考えて向かっていくというところが、ポイントだと思う。

SDGs 未来都市アワードで大賞を受賞した附属小倉中学校は、コンテンツも大事にしながら、SDGs に向かう資質能力を高めようとした。SDGs17 のコンテンツを分かったうえで、ESD の一つの流れ「知る、分かる、できる、やる」を実践することが重要である。その時に、ただやらせるのではなく、やることによって、どういった力がつくのかというのが教育界の重要なポイントで、ゴールに向かうことで、どういった資質能力が育まれるかである。

さらに、ゴールに向かうときに重要なのは、一人ではだけでなく、複数で対応することが重要だと理解することだと思う。SDGs は一人では達成できない。

最後に、「ESD・SDGs」の標記について、ESD と SDGs は並べられるものではないと思う。いつも申し上げているが、ESD というのは持続可能性を追求するもので、「漠」としている。そこにゴールが明確になったおかげで、ある意味 ESD の向かっていくべき方法や方途というものがはっきりしたのではないかと思う。そういう意味で SDGs に向かうエデュケーションが ESD なので、この「・」は「,」でもいいかもしれない。

【座長】

委員の意見では、自発性を持ち、自ら行動すること、そして他と関わりを持つこと、一方でそれぞれ個に帰ると何が担えるのが原点としてあるということだった。ワンチーム、一つの塊としてベクトルが揃い、全体として大きな流れになるためには個という形がしっかりと形成されないといけないと理念的な話も含めていただいた。

最後に表記の仕方、かなり具体的な「・」と「,」については考えなければいけない。ESD for SDGs という英語表記を、どのように表現すればいいのかというと、ただ単に並列するのではなく、ESD と SDGs の違いを解くカギが含まれる気がする。回答はなかなか出ないかもしれないが、大きな視点である。

【委員】

重点的事項の次世代育成の中で、「子育て世代との協働による人材育成」がとても気になっている。市民活動のサポートセンターで専門委員を長く務めており、子育て世代の学習会などの相談を受ける。20代後半から40代位の学齢期のお子様の保護者が多いが、その方達はPTA関係など家庭教育学級等で勉強されており、ユースの世代で、ESDのフィールドにとっても必要な方々だと思う。女性で、考え方も柔軟で、高等教育を受けられ、夢も希望もある中で、子育てや地域から見た世界、地球という視点で、食育のことや種のことや放射能のこと等を学ばれている勉強家である。その方達をSDGsの「誰一人取り残さない」という視点から見ると、こんなに人材の宝庫たる方々はいないと思う。

ESD協議会として、今期のアクションプランの中に書き込まれたということは大事な部分だということで、共に活動できたらと思っている。

【座長】

私も大学で学長をやっている時に、大学のキャンパスを0歳から100歳まで関わる事業の中の一つとして、子育て世代のNPO法人と協働の企画を10年ほどやってきた。子育て世代の方々が来ると、学生たちが赤ちゃんや小さい子の周りに集まり、同時にお母さん方に対しては、年齢の高い方がお母さん方のサポーターになり、3世代、4世代の繋がりができ、強力な関係性を持つ組織になると思う。具体的な活動の中に取り入れられればと思った。

重点的に取り組む事項については、具体的に何をやるかということ、理念的なものも含めてこれからの5年間も肝になる部分だと感じた。今日いただいた意見は具体的な形でどうやっていくか、DOの中での視点に結び付けられればと思う。

【委員】

先ほど言われていたが、「巻き込み感」というのは難しいところもあると思っている。ただ、SDGsの17の目標の中で、これをやると言った方が、はるかに分かりやすい。

そういう意味では、スローガンの中に何か一体感があるようなものを言葉にした方がいい。高校の先生たちはSDGsにすごく関心が高く、ESDよりはSDGsを学校の方針として取り組みたいなどと感じる。小中学校でも同様だと思うが、分離感ではなく、言葉で一体感を表現したい。

それから、SDGsの図書館大作戦という事業を行っており、さらに学校や市民センターや図書館等を巻き込んで、北九州の中で、何か一体感のあるものが出来たらと思っている。

また、公害克服からの学びについて、私が協議会の広報誌で記事や漫画を書いており、人材育成発掘プロジェクトで具現化して、少しずつ広まっている。さらに学校教育の中にも落とし込むことができたらと思っている。

SDGs普及、啓発に向けたESD推進を共に発信し、言葉の一体感と重点目標の一体感を

考えていけたらいいと思う。

【委員】

「協議会の推進体制と活動拠点のあり方」で、これまでも確かに事務局が頑張っているが、細かいやり取りの時に決まってないことあり、決めておいた方がいいことがたくさんあった。今後、「協議会の推進体制と活動拠点のあり方」や、事務局がサポートする内容などについてもワークショップなどをする価値があると思っているので、その機会を持ちながら進めていけたらと思う。運営委員会や役員だけで決まるのではないのが ESD 協議会のいいところなので、ワークショップで皆さんの率直な意見を伺いたい。

【座長】

最初に事務局が時間をかけてと説明されたが、その中身が問題なので、会員の意見を聞きながら、方向性を議論し、深い議論の中で考えていただきたい。

今までムーブから始まって、東田、まなびと ESD ステーションという所管も含めての変遷があった。そのような歴史的経緯を含めながら、ぜひ、新しい体制、事務局のあり方を議論していくことは次に繋げるために重要なことだと思う。

先ほど、委員からチャットで「SDGs の普及、啓発に向けた ESD を推進する」というメッセージがあった。他の委員からは、ESD との違いをその表記に仕方も含めて、エンドレスな活動が ESD、人が人としている限り教育は存在するとの意見だった。

ただ、ゴールというものを作ったときには運動会が終われば、終わってしまうようなところがあるが、そういう節々も必要だし、エンドレスな担い方も必要である。その二つが共存し、あるいは適度な緊張感を持つことによって、深まってくる活動になってくるかと感じた。

【座長】

次に、その他ということで、プラン全体を通した意見を伺う。

【委員】

11章の成果指標、活動指標は、今後5年間やるに当たって、プラン案には、量的なものはあるが、質的なものをもう少し入れていただきたい。指標について、検討委員が、どのように考えているか教えていただきたい。

【座長】

まずは、この取り扱いについて、事務局から簡単に説明いただいて委員に一言ずついただき、まとめる。

【事務局】

事務局では、この成果指標についてはまだ深くは議論していない状況で、今後進めていきたいと思っている。

【座長】

2025 年が終わったあとの重要な目安になるため、指標についての提案は非常に重要だと思う。成果指標、活動指標について何かあれば、一言ずついただきたい。

【委員】

ESD は教育なので、成果という形で上げるのは難しいという方もおられると思うが、具体的なものを持たないと目標というものにはならないので、出前講座を何回やったなど、今後も盛り込まれていくと思う。質的なものをどう担保していくかについては、これから考えていかないといけない。

【委員】

目標、指標はあったほうがいいと思うが、教育では、パフォーマンス課題でループリックなど、どこまで行くかという評価がある。教育で面白いのは基準（もとじゅん）、規準（のりじゅん）があり、「基準」というのは数値的だが、「規準」は何かできるようになるかという言い方をする。何かできるようになる、達成できるという評価は難しいが、数字を入れるとそのために何をするかということに傾注し、本末転倒になるので、これは幅広く考えていただければと思う。

【委員】

どうしても数値目標は最終的に出さなければいけないという事情はよく分かるが、やはり本末転倒にならないように、数値を設定すればいいと思う。内容やパフォーマンス、何かできるようになったかなどが重要だと思う。その時にプロセス評価、パフォーマンス評価、定性的な評価も入れてもいいと思う。また、活動指標についても、もう少し重要なものに絞っていいかと思う。

【委員】

北九州市自体が SDGs 未来都市として設計されている中で、必達的な指標もあるかもしれないが、その中で協議会が一つでもコミットできるものを持っておくといい。未来都市にコミットメントできる指標を持ちつつ、協議会運営で、アクションプランの活動が指標化できる項目を設定しておけばいいと思う。協議会自体がモデルを持っているので、いろいろな方々や他の都市から見たときの参考となるような、あまり高見ではなく、自分たちと同じ目線のもので、十分役割を果たすのではないかな。

【座長】

例えば、SDGs 未来都市アワードも、若い人が増えることや、自主的な、独自性で、他のアワードには見られないということがあれば、それも大きな指標だと思う。ある意味、この地域に対する貢献で、指標であると思う。

You Tube のアクセス数とか、まなびと ESD ステーションにきた人以外に Web 会議参加などもカウントする方法がある。幅広い形で、あまり厳しく評価する形ではなく、目指すところで上げたくなる、我々が行動する場合のモチベーションになるような指標がいいと思う。

本日は、貴重な意見をたくさんいただいた。皆様の意見やパブコメを取り込みながら、みんなで一体となって作るアクションプランの中身が、学び、考え、行動するという次の成果になり、次のアクションプランに繋いでいけたらと思う。

【事務局】

第2回の検討会の開催は、5月を予定している。

本日、いただいた意見をアクションプランに反映し、パブリックコメントを行い、協議会で議論を深めていきたい。次回はアクションプラン最終案について重点的に協議したいと考えている。